

言葉の魔法

ちょっとした一言が人を変える力を持つことがある。
迷ったときの道標になる言葉、
ふと思い出して元気になれる言葉……。
確かな成果を残したビジネスパーソンたちに、
そんな言葉の魔法を聞いてみよう。

“そんなこと、おまえが考えろ”

私はいろいろと忘れてしまうほうですが、この言葉は、もう25年になるのに覚えています。三菱商事に入社して間もない頃、ガムを噛んでいた先輩に「ガム噛んでもいいんですか」と聞いたとき、言われた言葉です。

トイレにさえ「行っていいですか」と聞いて行くような時期で、自分で判断するなど考えてもみななかったのでドキッとしました。でも確かに先輩がいいと言ったとしても、状況次第でいい場合、悪い場合がいくらでもあるわけです。結局のところ、いつだって自分自身で判断しなければならないのだと気付きました。そこからでしょうか。私の中に、上からの指示通りにやるなんて仕事のうちに入らない、という天邪鬼なところが出てきたのは。

社内ベンチャーで始めた『スープ ストック トーキョー』もそうでした。普通、企業の新規事業は利益予測をして進めていきます。でもそれでは、スープがある生活という世界観が根底にあり、その可能性に閃いてわくわくしている自分の思いは伝わらないと思いました。それでメニューから何から全部考え「スープのある1日」という物語を書いて提案しました。入口が普通と違うから経営側には理解されないという不安もありましたが、「こうでなければいけないなんてことはない！」と言いながら自分を奮い立たせていたのを覚えています。

それから10年。この2月にMBO（経営陣買収）に踏み切ったのも、売上げや過去の実績という既成の判断基準ではなく、自分たち自身の判断で、世の中にもっとよいものを提案していきたいと考えたから。9月にオープンした新概念のリサイクルショップ『パス ザ バトン』もそのひとつです。

多分、先輩は「おまえが考えろ」と言ったことすら覚えていないでしょう。単にそんなの決まってねーよ、という意味だったかもしれない（笑）。でも私には響いたんです。いい言葉もらったと思っています。



スープ専門店『スープ ストック トーキョー』で
三菱商事初の社内ベンチャーを成功させた

遠山正道氏

スマイルズ 代表取締役社長

Masamichi Toyama_1985年三菱商事入社。99年社内ベンチャー制度にてスープ専門店「Soup Stock Tokyo（スープストック トーキョー）」を立ち上げる。翌年株式会社を設立し、首都圏に50店以上展開する事業へと育て上げる。2009年2月同社を退社し、MBOによりオーナー経営者となる。同年9月リサイクルショップ『パス ザ バトン』をスタート。出品物の歴史を価値と捉え、出品者名を明記ストーリーを語りながら販売する手法が注目を集めている。